平成３１年(2019年)２月１５日発行
機関誌『わかくさ』　第４７号

# わかくさ

社会福祉法人栄光会
児童養護施設 若 草 園
〒787-0155 高知県四万十市下田 2211
Tel(0880)33-0247　Fax(0880)33-0518
IPﾌｫﾝ 050-3344-8850
ホームページ⇒ http://wakakusaen.holy.jp/
発行：福留久美、編集：瀬戸雅弘

1.7 天高く飛べ！
　冬休み最後の日、若草園の庭では男児が凧揚げをしていました。その様子を見ているだけで、心も高くあがっていきます。

1.27 カルタ会（2pに記事あり）

## 新年ごあいさつ

施設長
福留久美

晩冬の候、清々しい新年をお迎えのことと存じます。旧年中は子ども達のために格別のご厚情を賜り心より御礼申し上げます。皆様にとりまして本年がより一層幸せな一年でありますようにお祈り申し上げます。また、すべての子ども達が安心して暮らせる一年であることを願っております。お力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、近年では家庭の正月風景がかわりつつあります。1月1日の朝に家族そろってお雑煮やお節を頂く家庭はどのくらいでしょう。正月はゆっくり起床して初詣のついでに外食というような光景も見られます。元旦の朝は年神様が各家々に降臨され、一年間、作物が豊かに実り、家族に幸せをもたらし、先祖の魂を清め子孫繁栄をもたらし、家を護られると言われています。このことから年の終わりに大掃除をして、しめ縄、鏡餅を飾り年神様を迎え入れます。お節の品目それぞれのいわれも重なる部分があります。日本あるいは地域には様々な伝統、文化、風習があります。それには長い歴史と沢山の意味があり、大人たちが子どもに伝えて来ました。近年子ども達は、パソコン、携帯電話、ゲーム等が主流の生活になっています。それらを取り除くことは今では不可能でしょう。しかし日本人としての文化や習慣も伝えて（経験させて）いかなければ、子どもは知らないまま育ちます。子ども達が情操豊かに成長するためにも大切にしたいものですね。

最後になりましたが、インフルエンザが大流行し季節の変わり目でもありますので、くれぐれもご自愛下さいますようお祈り申し上げます。

**育児相談窓口**
児童家庭支援センター
わかくさ
でんわ（0880）
33-0258
24 時間 365 日
相談料無料
（通話料はかかります）



現在入所児童数３３／暫定定員４０／入所定員５１　　題字：西 久子初代園長（若草園創立 1957[S32].7.1）

ある朝、出勤すると管理棟にアオサギが留まっていました。田んぼや水辺で昆虫を探している様子は時々見かけますが、まるで屋根飾りのようでした。２階の窓からは四万十川や太平洋が眺められる若草園はとても環境の良い場所に建っています。

また設備面でも、様々な整備補助金事業を活用しながらより良い環境をつくりあげています。

建て替えから10年が過ぎて、少しずつ手を入れなければならない場所も増えてきました。先日は全ホームの食卓の椅子が寿命になり、交換しました。佐竹音次郎の玄孫にあたる方が運営する西土佐の手作り家具工房で製作していただきました。手作りだと修理もできるので、大切に使っていきたいと思います。

◀アオサギ
画像提供 ⓒ薮内正幸美術館

① 若草園近隣にある西南大規模公園から見る夕日
② 今年整備された防災倉庫（ここは海抜 31.5m）
③ 共同募金で整備されたバックネット
④ 若草園の窓から見える四万十川河口
⑤ 四万十市の防災対策で整備された避難誘導灯
⑥ 環境整備事業で整備した手作り椅子と匠

# 児童の帰省

若草園の児童は冬休みなど長期休日には親権者などの家庭に一時帰省します。この年末年始の帰省状況は左の一覧表の通りです。

【帰省日数】

| | |
|---|---|
| 帰省なし３人 | |
| 日帰り外出 | ２人 |
| １泊２日 | ２人 |
| ２泊３日 | １人 |
| ３泊４日 | ９人 |
| ４泊５日 | ２人 |
| ５泊６日 | １人 |
| ６泊７日 | ３人 |
| ７泊８日 | ５人 |
| １０泊以上 | ２人 |

【帰 省 先】

| | |
|---|---|
| 母宅 | １４人 |
| 祖母宅 | ４人 |
| 父宅 | ３人 |
| 父母宅 | ２人 |
| その他 | ４人 |
| 職員宅 | １人 |
| 帰省なし | ３人 |

現在、入所児童33人のうち31人の児童が帰省しました。帰省先で一番多いのは母宅で、親権者が母である児童が多い事に起因します。２人は冬休みの帰省と共にそのまま家庭で生活をはじめています。

施設の運営は24時間３６５日体制ですが、若草園で新年を迎えた児童は６人、職員は４人でした。現在若草園にある６ホームのうち、２ホームでは児童全員が帰省したためホームを閉鎖しました。そのため、平年よりはお正月休みを取れる職員が増えました。

今年の冬休みは比較的あたたかかったこともあり、全般的に体調を崩したり、インフルエンザに罹る子どもも少なく、平穏な新年を迎えることができました。

1.27 百人一首源平合戦
若草園では伝統的に百人一首競技カルタに取り組んでいます。夏は伊豆杯争奪戦、冬は源平合戦です。現在は詠み手が不在なので、全日本かるた協会の詠唱ＣＤを利用しています。

12.15 クリスマスキャロル
お世話になっているお宅を下田と中村のふた手に分かれて、クリスマスの喜びの讃美歌にのせて訪問しました。

11.10 ＢＳ募金活動
若草園で結団しているボーイスカウト中村第１団として、赤い羽根共同募金のボランティア活動をおこないました。

12.22 クリスマス礼拝と祝会
キリスト教系施設である若草園ではクリスマスを盛大にお祝いします。ケーキの差し入れと、芸人さんの余興があり、華が添えられました。

冬の園庭
ブランコなどで遊ぶ子ども達。2011 年、公園などの遊具に相次いで危険な状態が発見され、緊急整備事業で取り替えたものです。

青森から届いた果実

# クリスマスプレゼント

年末にはＮＨＫ歳末助け合いをはじめ各種募金活動がさかんになりますが、若草園にもクリスマスの時季は寄付が多く寄せられます。

毎年、青森のＪＡからりんごが届きます。これは夕方のテレビのローカルニュースでも報道されたのでご存じの方も多いと思います。12月21日の高知新聞でも「青森県のつがるにしきた農協が児童施設などに果物贈呈」として次のように掲載されました。

**高知県内の児童養護施設など10施設に20日、青森県つがる市のつがるにしきた農協からリンゴとブドウ計100箱が贈られた。同農協が高知県中央青果市場との取引を機に、高知県の福祉に役立ちたいと１９９２年から続けている。**

**これに併せ、県中央青果市場、中央運送、県中央青果市場買受人組合の３団体も高知県に計40万円を寄付した。県子ども食堂支援基金に積み立てられる。**

また、３人の個人と法人からケーキがプレゼントされました。かつてＮＨＫの眠らない郵便局の番組で紹介された門司一徹さんのクリスマスカードが今年も届きました。

クリスマス祝会ではものまね芸人・ジャガー川村さんとミュージシャン・筒井啓文さんがボランティアで参加してくださり、楽しい余興を披露してくださいました。

# 子ども達の総合学習

地元紙高知新聞では小中学生の総合学習の成果を発表する場が設けられています。そこに時々、若草園の子どもも登場して、私たち職員は喜ばせて頂いています。

## また会えた！

★四万十市　下田小★

去年の（四万十市と三原村の学校の）交かん会では友達ができて、いっしょに遊べて楽しかったです。だから、今年も参加できてうれしかったです。

いちばん心に残ったことは、去年友達になったK子ちゃんに会えたことです。久しぶりなので声をかけるのにドキドキしました。「K子ちゃん、おはよう」と勇気を出して言うと、「久しぶり!!」とにっこり笑ってくれました。K子ちゃんたちとキャッチボールやおにごっこをして遊びました。お昼もいっしょで、おやつはみんなでわけっこをして食べました。

H君という新しい友達もできました。うれしかったです。次はもっと友達が増えて、ドッジボールもしてみたいです。

（6年、B・K記者）

## 鬼が来たぞ！

2月3日節分の日の夜、なごやかな日曜日の食卓を囲む頃、若草園各ホームでは謎の赤鬼の出没が目撃されました。

具同ホームでは突然の出現に悲鳴があがりましたが、気を取り直して、豆とおもちゃのバットで追い払いました。

## ○高知新聞の記事から○

11月20日の高知新聞で若草園の様子が紹介されました。11月11日、若草園へ本格的なケーキ作り指導に、お菓子づくりのプロがやって来てくださいました。

2011年11月20日にも来てくださっており、7年ぶりです。

（高知新聞社メディア技術局に記事使用の許諾申請済）

## 児童らケーキ作り

### 若草園　パティシエ指導

四万十市

【幡多】四万十市下田の児童養護施設「若草園」の児童生徒がこのほど、プロのパティシエに教えてもらいながら、クリスマスケーキ作りに挑戦した。

この時期に県内の児童養護施設を訪れている。

11日は、高知市、四万十市、宿毛市のパティシエら7人が、ケーキのデコレーションなどを指導した。

県洋菓子協会（門田正志会長）が「ケーキ作りの楽しさを知ってもらおう」と、毎年同園の13人がパレットナイフを使い、スポンジケーキに生クリームを塗って土台を作った。その上からイチゴやキウイなどを思い思いに飾り付け。パティシエから「ケーキ屋さんになれる」などと褒めてもらいながら、次々と完成させた。

中学2年の女子生徒は「生クリームの飾り付けは難しかったけど、上手にできたと思う」と喜んでいた。

（西村大典）

パティシエに教わりながらケーキに飾り付けをする児童（四万十市の若草園）

退所児童等アフターケア事業
あおば は、新年度から「社会的養護自立支援事業」に名称が変わりました。
児童養護施設、里親家庭などから自立した方の相談はこちらで受け付けています。
Tel (090)5912-1785
専門相談員　岡崎光子
9:00 ～ 17:00（緊急の場合は24時間対応します）
<< 無料 >>　（通話料はかかります）

## 編集後記

「悪い子はいねが！　怠け者はいねが！」。声を上げて藁装束の数体のナマハゲが各家庭を練り歩き、幼い子が激しく泣いて怖がる様子をテレビで見たことがある。秋田の伝統的風習が昨年、ユネスコの無形文化遺産に登録された。地元では年末の恒例行事である。仮面は鬼ではなく「神の使い」なのだそうだ。▼2月には節分があり、これには鬼が登場する。若草園でも上記の記事の通り。▼近年、朝ドラで水木しげるが取り上げられたこともあって、妖怪ブームが起こっている。近隣には旧大正町にカッパ館がある。▼ナマハゲ、鬼、妖怪、それらに共通するのは「畏れ（おそれ）」である。ヒトは霊長類として地球生態系の頂点に君臨して居る。しかし、私たちよりももっと強大な存在があり、謙虚に生きるべきことをそれらの存在を思う時に教えられる。▼ヒトは弱い部分を持っている。物理学者パスカルは「人間は考える葦」と言っている。細い線の草のようにポッキリと折れやすい存在だと。彼はキリスト教神学者でもあった。▼「人という言う字は支え合っている」。そんなセリフが聞かれる卒業時季になった。謙虚な気持ちがなければ、人から支えてもらうこともできなくなる。（せと）